

赤ちゃんにそっと手をそっとあてる
そんな手当のお話をきき
実践の見学をしませんか？

2025年
3/20
(祝)



京都
宇治にて

平塚晃一先生

日本オステオパシー学会会員
日本オステオパシー学会名誉会長
日本オステオパシー連合オブザーバー
クレンジオセイクラルセラピー

オステオパシーって何？



クレンジオセイクラルセラピーって何？



会 場：平和堂100BAN店2階

申 込：必要

時 間：1部 10:15～12:15

※お話と実技見学

2部 13:30～15:30

※実技見学が中心となります

参加費：各1,000円(1部2部とも)

※先生のご厚意で、今回お安く設定できました。

※京都府の地域交響プロジェクトの助成金も活用しています。

対 象：赤ちゃんや子どもの育ちや、からだや、こころをサポートする活動をされている方

定 員：概ね20人程度

こんにちは。

私は、子育ての文化研究所の事務局をしている、迫きよみと申します。

数年前に、クレンジオセイクラルセラピーと出会いました。赤ちゃんや子どものケアにとってもよいと思ったからです。

今回講師をしてくださる平塚先生に、赤ちゃんや子どものケアを学びたいとお話したところ、「実際に赤ちゃんを集めやすい京都に行きませんか」とご提案いただき、開催の運びとなりました。

めったとない機会なので、子育ての文化研究所として開催し、多くの方と一緒に学びたいと思い企画をしました。

急なご連絡ですが、よかったら一緒に学びませんか？

赤ちゃんのモデルも頑張ってお願ひして集めていきます。

講座開催のいきさつ

子育ての文化研究所・事務局長の迫きよみは、数年前から「クレンジオセイクラルセラピー」を学んでいます。

<https://www.ui-japan.com/> (参考にご覧ください)

それは、近年向き癖が強かったり、反りが強かったり、頭の形に左右差がある赤ちゃんが増えてきたことに対し、支援者として、何かできることがあるはずだと考えたからです。それも、医療的なケアではなく、家庭で親ができることがあるなら、そのヒントが欲しいと思ったことに因ります。

しかし、実際に赤ちゃんのケア実践を見学する機会がないので、そのことを相談したところ、たくさんの実績をお持ちの平塚晃一先生が、東京から京都に来て、実践を見せてくださることになりました。

そこで、子育ての文化研究所のメンバーに相談したところ、「ぜひ学びたいし、きっと他にも学びたい人はたくさんいるはずなので講座として開催したい」ということになり、年度末ではありましたが、企画を立てました。

3月20日(春分の日)午前と午後の二部制で開催しましたが、両方17名の参加があり、延べ34名の方が参加されました。また、モデルとなる赤ちゃんも10組ほど快くご協力いただき、感謝申し上げます。その殆どが父母共のご参加で、その熱意を感じる場となりました。

講座の内容

開催地 宇治市 (NPO 法人子育てを楽しむ会)

参加者午前17名 午後17名 モデル参加 10組の親子

- 先生の自己紹介(今回の講座につながるご自身の歴史)
- オステオパシーについて
- クラニオセイクラルセラピーについて
- 医療の考え方について
- 具体的にすること
- モデルさんでの実践
- 質疑応答



参加者の声より

- 夜泣きは疲れたから泣いていることを知らなかったので学びになりました。硬いところをほぐすことで夜泣きの原因を取り除くことができることを知り、困っているおうちの方にお伝えできたらいいなと思いました。
- オステオパシーは本来身体が持っている治癒力を引き出していることがわかりました。平塚先生が対応されたお子さんたちの変化を見てすごいなと思いました。
- 先生が触られただけで、今まで泣いておられた赤ちゃんが泣き止んで気持ちよい顔になっているのが、実際に見られて良かった！お父さんも実際に身体を触って、固い、柔らかいなどを実際に触って動かしたりしてみるといった実践が間近で見れてよかった
- オステオパシーについての理解が合っているのかはわかりませんが、先生のされている、頭蓋仙骨治療は、ママでもできるということです。専門的になることもあるが、まずは、子どもの身体のこりを知ることが子どもたちへできる第一歩だと知りました。夜泣きはこりが原因で起こるので、こりをほぐしてあげると泣き止んで寝るなど、本当に勉強になりました。
- 平塚先生ご自身の経験からくる、どこかに何かがあるから、そうになっている。その事に改めて学ぶことの意味をたくさん教えていただいた時間でした。親が子どもを想い健やかな発達をしてほしいと願うもなにが正解なのか、どうしたら良いのか手立てもなく悩んだり自分を責めたり子どもを否定したりすることなく、その子の成長にあった適切なことを親御さんができることがあると保護者さん達が知る(特に夫婦で)ことが本当に大切だと思いました。視点が変われば選択肢が増えた時に選ぶチカラを親も学べた時間でした。
- 人間が本来持っている体の構造や治癒力を促す方法、とてシンプルで分かりやすかったです。知ることで、できることがある、改善することができる、親にとって何も異常がないと言われる事ほど辛くて出口のない迷路に迷いこんだみたいになっていく感覚がありましたが諦めずに知る、学ぶことを諦めなかった平塚先生が開拓された学びが人間そのものの成長発達に繋がっているのだと思いました。
- 我が子以外への手ほどきの指導には注意が必要だと思うが、赤ちゃんのからだのこりや疲れについては、保護者と向き合うことができる。赤ちゃんにとっての心地よいポイントを探しママの手で赤ちゃんの笑顔、睡眠をサポートできれば子育てへの自信にもつながる。
- 赤ちゃんの夜泣きや向き癖など様々な不調の理由が機能障害にあることが多く、親が日常的に赤ちゃんに触れて観察しケアすることができることを知り、とても貴重な学びがありました。

主催者としての感想

今回、「オステオパシー」「クラニオセイクラルセラピー」など、聞いたことがない言葉がたくさんありました。しかし、実際に平塚先生がされたことは、やさしくそっと赤ちゃんのカラダに触れるだけ。その手が触れていることが心地よい赤ちゃんはそのままニコニコするし、それが不愉快な赤ちゃんは、バタバタとする。しかし、十分バタバタしたら、なぜかそのあとすっと落ち着く。

その様子を見て、「先生、これは私にできるのですか？」と親の方が質問をされる。そしたら先生は「できますよ」と答えられる。でも、また親の方が「わかるのでしょうか？ 子どもの硬いところとか？」と聞かれる。でも先生は「親だからわかります」ときっぱり答えられました。

そこが大事なのかなと今回とても思いました。

だっこにしても、マッサージにしても、赤ちゃんに関するいろんな民間資格ができ、専門家でないとわからないという風潮になりつつあります。

けれども、目の前にいる自分の子どものことを一番わかっているのは、親なのです。平塚先生が「毎日触っていたら変化に気が付く」と言い切られた、この出会いの短い時間の中で、親の方も「そうかも」と思われたようです。

実際に、この日を境にして、毎日赤ちゃんに触れているという声や、続けてやってみようと思うという声が寄せられています。

子育て支援者は、親のお手伝いができる程度。あくまでも親が子どものメインサポーターとなれるように、子育ての支援者はそのサポートをするということです。

とっても大事なことを学んだ一日だったと思います。

81歳の年齢で、東京からお越しくださり、本当にありがとうございました。